

2013年4月11日 全6頁

## Indicators Update

## 2月機械受注

2ヶ月ぶりの増加となったが、基調は弱い

経済調査部  
エコノミスト 齋藤勉

## [要約]

- 2月の機械受注では、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+7.5%と2ヶ月ぶりのプラスとなり、市場コンセンサス（同+6.9%）を上回った。ただし、基調を確認するために3ヶ月移動平均で見ると、2ヶ月連続のマイナスとなっていること、民需の60%以上を占める非製造業からの受注が低位で推移していることなどから、機械受注は弱含みが続いているとみている。
- 需要者別の内訳を見ると、製造業は前月比+8.6%と2ヶ月ぶりの増加、非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+0.6%と3ヶ月ぶりのプラスとなった。素材系業種からの受注の増加と、「電気機械」の大幅増加が全体を押し上げている。一方で、非製造業では減少の続く業種が多く、単月ではプラスとなったものの内容は良くない。
- 外需は前月比+8.0%と3ヶ月ぶりに増加した。足下では米国向けの増加を主因に一般機械の輸出金額が下げ止まりつつあり、外需は2012年8月頃を底に、緩やかに増加傾向にあるとみている。
- GDPベースの設備投資は2013年1-3月期には増加する見込みであるものの、機械受注は弱含みが続いていること、為替が円安に振れてから輸出数量が増加するまでは概ね半年程度のラグがあることなどから、設備投資の本格回復は2013年半ば以降になるだろう。その後は、海外経済の回復、足下で急速に円安方向に振れている為替の追い風を受けた輸出の増加、賃金上昇による内需の堅調な増加などから、設備投資も緩やかに増加傾向が続くとみている。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

|             | 2012年  |     |        |       |       |        |       |       |      |        |        | 2013年 |
|-------------|--------|-----|--------|-------|-------|--------|-------|-------|------|--------|--------|-------|
|             | 3月     | 4月  | 5月     | 6月    | 7月    | 8月     | 9月    | 10月   | 11月  | 12月    | 1月     | 2月    |
| 民需（船電を除く）   | ▲ 2.8  | 5.7 | ▲ 14.8 | 5.6   | 4.6   | ▲ 3.3  | ▲ 4.3 | 2.6   | 3.9  | 2.8    | ▲ 13.1 | 7.5   |
| コンセンサス      |        |     |        |       |       |        |       |       |      |        |        | 6.9   |
| DIR予想       |        |     |        |       |       |        |       |       |      |        |        | 6.3   |
| 製造業         | ▲ 8.4  | 3.4 | ▲ 8.0  | ▲ 2.9 | 12.0  | ▲ 15.1 | 2.8   | ▲ 3.6 | 3.9  | 3.0    | ▲ 13.2 | 8.6   |
| 非製造業（船電を除く） | ▲ 3.9  | 5.7 | ▲ 6.4  | 2.6   | ▲ 2.1 | 3.6    | 1.3   | 2.8   | 6.2  | ▲ 8.0  | ▲ 6.3  | 0.6   |
| 外需          | ▲ 14.4 | 0.3 | 0.3    | ▲ 9.8 | 3.0   | ▲ 14.7 | 0.0   | 9.4   | 17.0 | ▲ 12.6 | ▲ 4.8  | 8.0   |

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府統計、Bloombergより大和総研作成

## 機械受注は2ヶ月ぶりのプラス

2月の機械受注では、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+7.5%と2ヶ月ぶりのプラスとなり、市場コンセンサス（同+6.9%）を上回った。ただし、基調を確認するために3ヶ月移動平均で見ると、2ヶ月連続のマイナスとなっていること、民需の60%以上を占める非製造業からの受注が低位で推移していることなどから、機械受注は弱含みが続いているとみている。

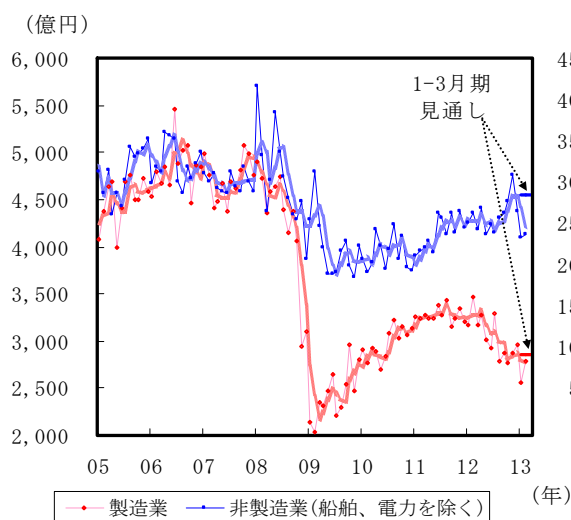
## 製造業は2ヶ月ぶり、非製造業は3ヶ月ぶりの増加

需要者別の内訳を見ると、製造業は前月比+8.6%と2ヶ月ぶりの増加となった。「化学工業」が同+15.1%、「鉄鋼業」が同+50.9%、「非鉄金属」が同+170.4%、「金属製品」が同+34.6%と、素材系業種で受注が増加していることに加え、「電気機械」も前月比+34.7%と大幅に増加したことが全体を押し上げた。一方で、「一般機械」は前月比▲8.0%、「情報通信機械」は同▲22.0%とそれぞれ2ヶ月連続の減少となっている。

なお、機械受注に先行するとされている工作機械受注の動向を見ると、日本工作機械工業会の3月工作機械受注統計では、内需が急増しており、製造業からの受注は反転する兆しがみられている。単月の結果からは判断が難しいものの、今後の動向に注目したい。

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+0.6%と3ヶ月ぶりのプラスとなった。「卸売業・小売業」が前月比+5.9%の増加、「不動産業」が同+13.4%と増加している一方で、「通信業」は前月比▲0.1%と3ヶ月連続の減少、「金融業・保険業」も同▲24.0%と大幅な減少、「情報サービス業」は同▲4.1%と4ヶ月連続の減少となっているなど、内容は良くない。

図表2：需要者別機械受注

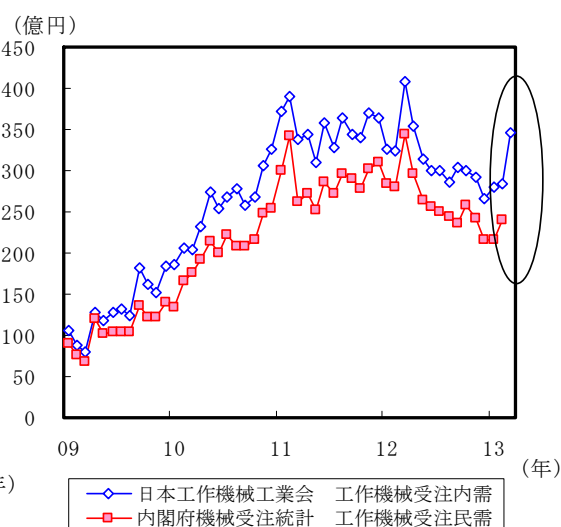


（注1）太線は3ヶ月移動平均線。

（注2）工作機械受注金額の季節調整は大和総研。

（出所）一般社団法人日本工作機械工業会、内閣府統計より大和総研作成

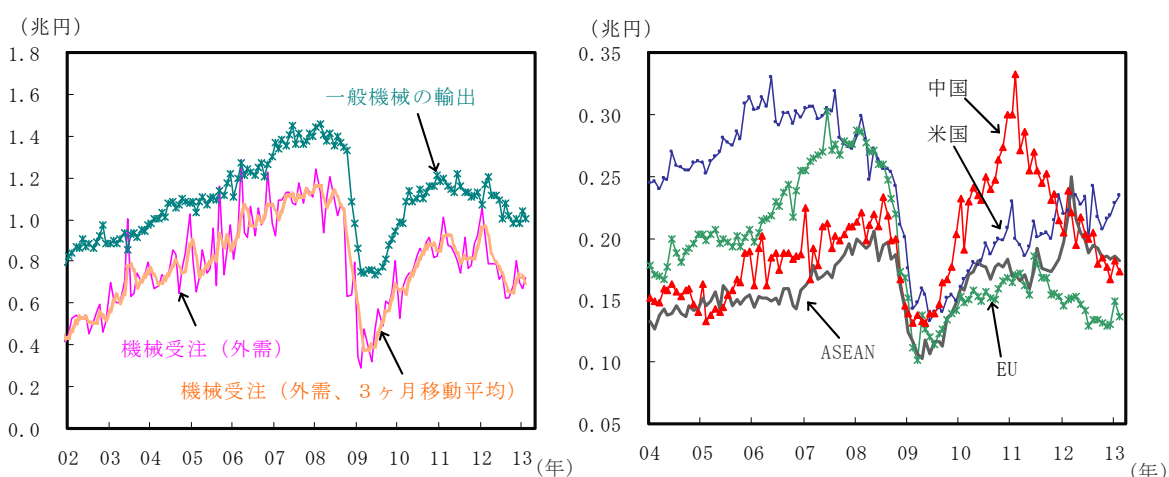
図表3：工作機械受注の推移（季節調整値）



## 外需は3ヶ月ぶりの増加

外需は前月比+8.0%と3ヶ月ぶりに増加した。2012年12月、2013年1月と減少が続いていたが、これは2012年11月に大型の受注があったことの反動減であると考えられる。足下では米国向けの増加を主因に一般機械の輸出金額が下げ止まりつつあり、外需は2012年8月頃を底に、緩やかに増加傾向にあるとみている。米国向け輸出の増加に加え、主要輸出先である中国やASEANの景気が底打ちしたとみられていること、為替が円安方向で推移していることなどから、外需は今後も増加が続く見込みである。

図表4：一般機械の輸出と機械受注の外需 図表5：一般機械の輸出金額（主要国・地域）



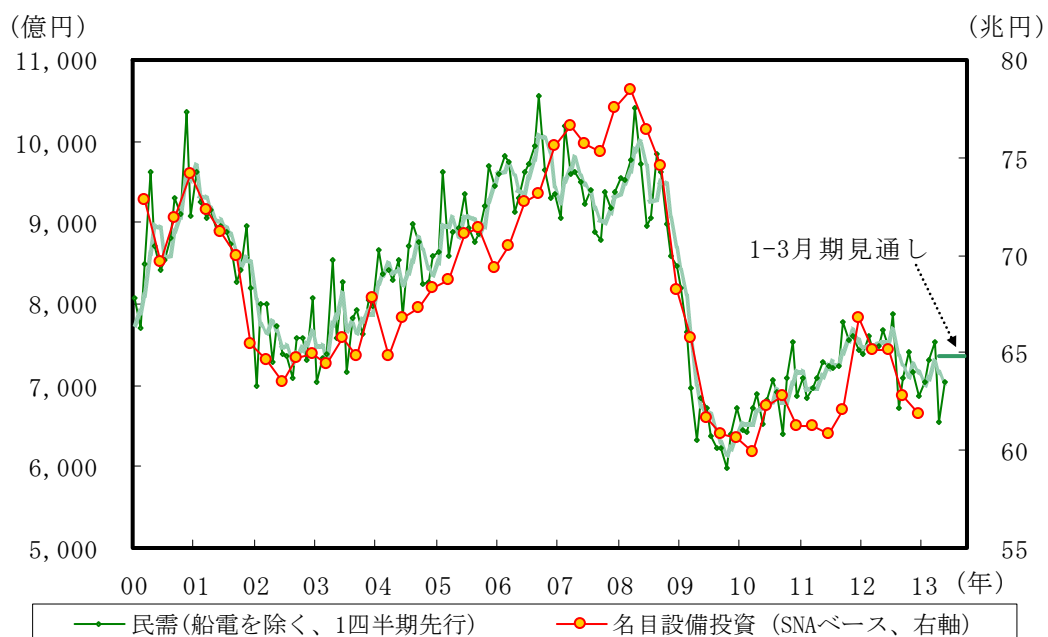
(注) 輸出金額の季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

## 設備投資は2013年半ば以降緩やかに増加に向かう見込み

内閣府公表の1-3月期見通しでは、民需（除く船舶・電力）は前期比+0.8%と2四半期連続の増加を見込んでいるが、これを達成するには、3月に前月比+20.7%の増加が必要となり、可能性は低い。大和総研では1-3月期の機械受注は2四半期ぶりの前期比減少となると見込んでいる。

GDPベースの設備投資に対して概ね3ヶ月程度の先行性がある機械受注が2012年10-12月期に増加したこと、足下で資本財出荷が下げ止まったとみられることなどから、GDPベースの設備投資は2013年1-3月期には増加する見込みである。ただし、機械受注は弱含みが続いていること、為替が円安に振れてから輸出数量が増加するまでは概ね半年程度のラグがあることなどから、設備投資の本格回復は2013年半ば以降になるだろう。その後は、海外経済の回復、足下で急速に円安方向に振れている為替の追い風を受けた輸出の増加、賃金上昇による内需の堅調な増加などから、設備投資は緩やかに増加傾向が続くとみている。

図表 6 : 機械受注の民需と名目設備投資 (季節調整値)

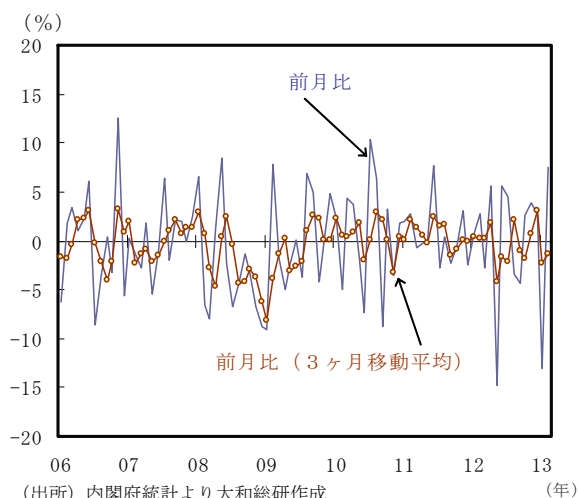


(注) 太線は3ヶ月移動平均線。

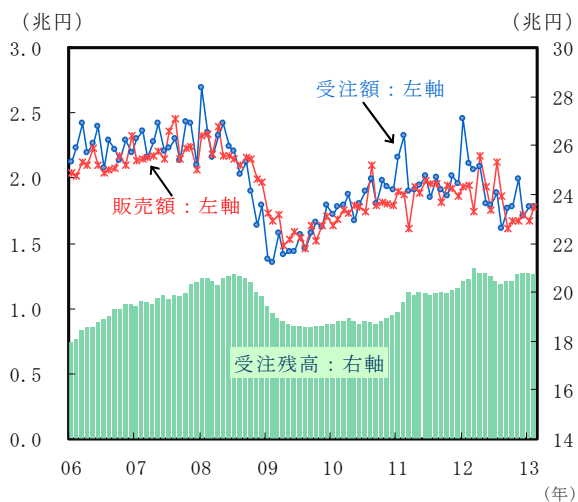
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

## 概況

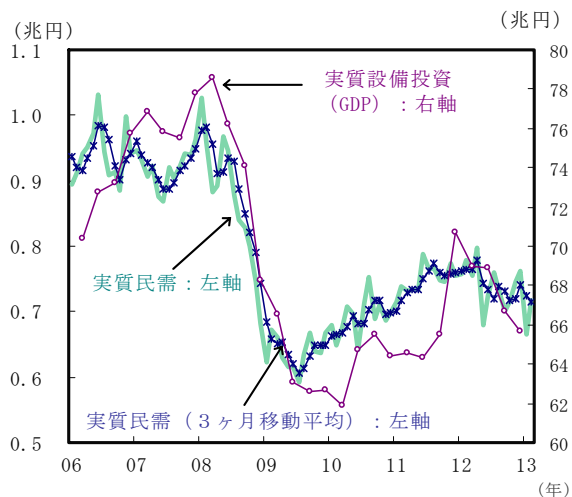
民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）



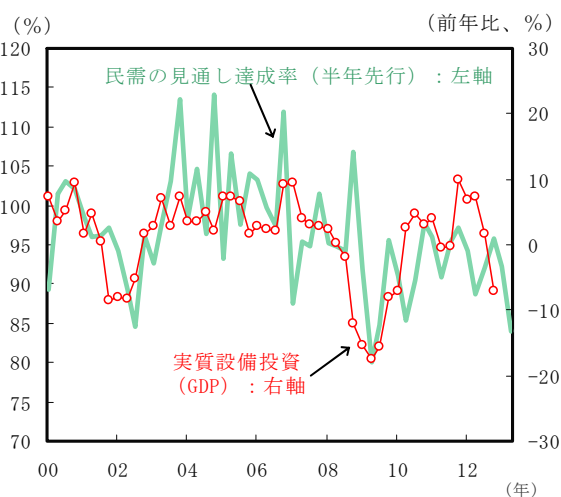
船舶を除く合計（季節調整値）



実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）



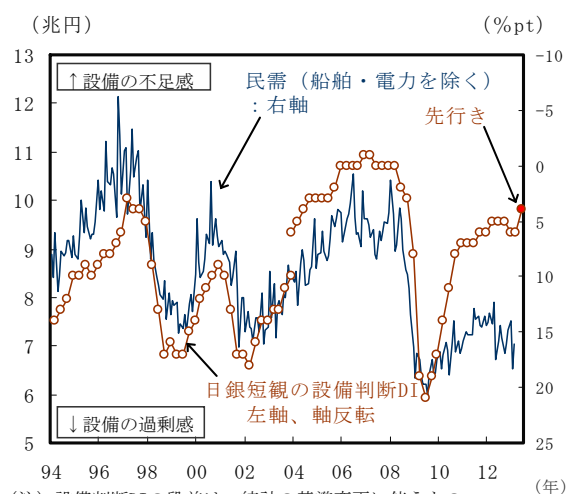
民需（船舶・電力除く）の達成率と実質設備投資



(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。

(出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

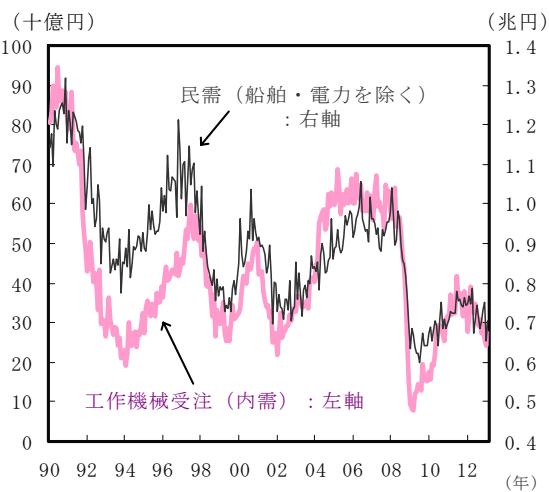
機械受注（季節調整値）と設備判断DI



(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。

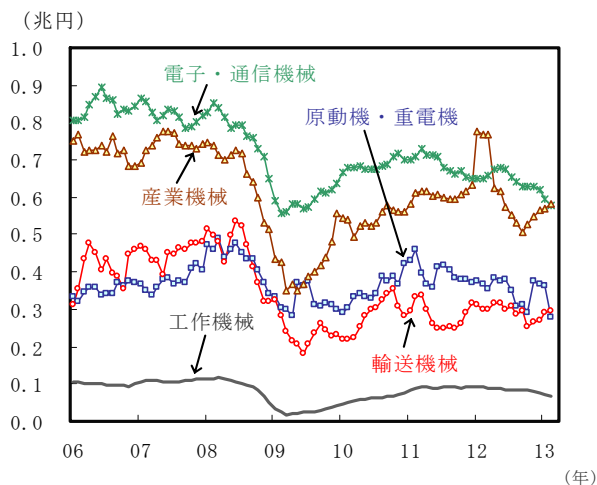
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

機械受注と工作機械受注



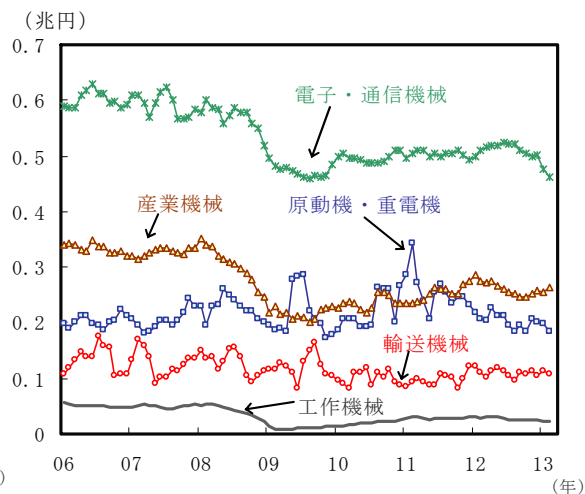
# 機種別と製造業・非製造業の動向

## 機種別・大分類の受注額（季節調整値）

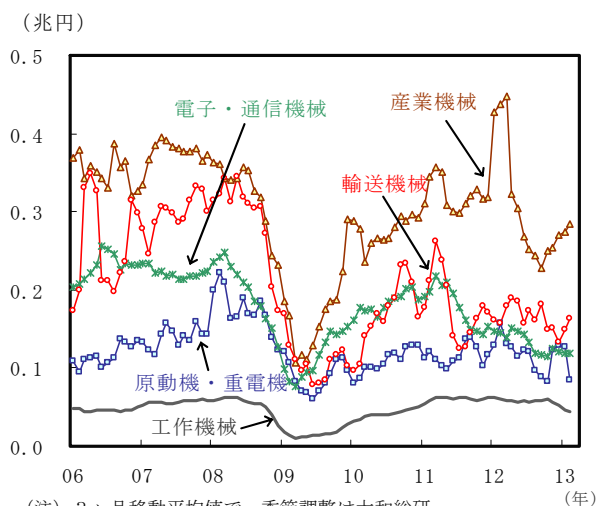


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

## 機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

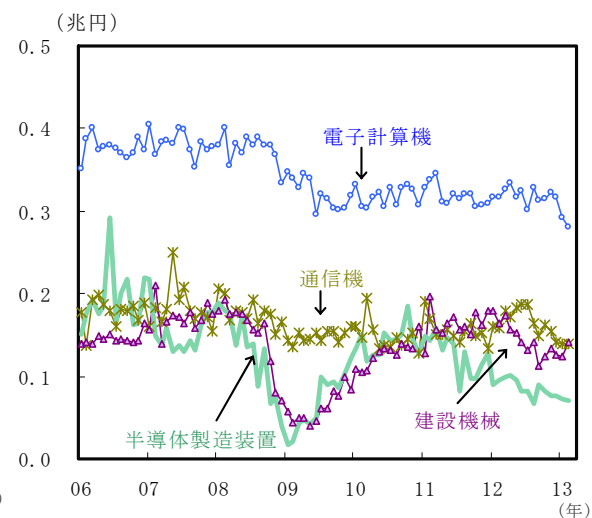


## 機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

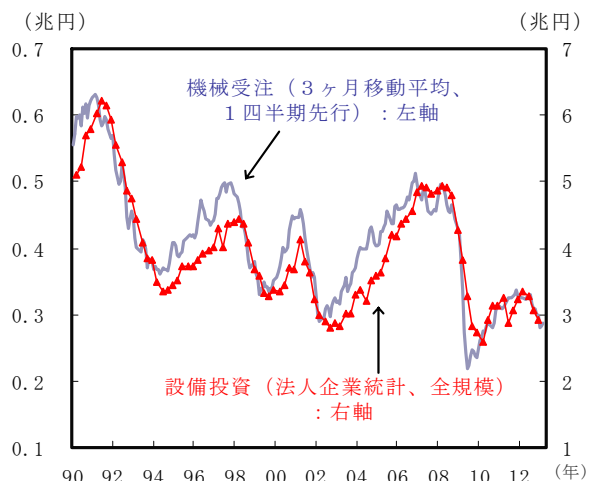


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

## 機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）



## 機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



(注) 設備投資の季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

## 機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）

